

# 「パーキンソン病の予後予測因子に関する研究」に対する ご協力をお願い

研究責任者 手塚 俊樹  
研究機関名 慶應義塾大学医学部  
(所属) 神経内科

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、当院で診療を受けた患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

## 1 対象となる方

2011 年 1 月から 2026 年 12 月 31 日までに、当院にてパーキンソン病の診療を受けた 20 歳以上のパーキンソン病患者が対象となります。

なお、対象となることを拒否する申し出があった場合は、本研究の対象ではありません。

## 2 研究課題名

承認番号 20231166

研究課題名 パーキンソン病の予後予測因子に関する研究

## 3 研究組織

研究機関

研究責任者

慶應義塾大学医学部 内科学（神経）教室 （職位）専任講師（氏名）手塚 俊樹

## 4 本研究の目的、方法

パーキンソン病は、日本社会の高齢化に伴い、今後患者数の大幅な増加が見込まれています。パーキンソン病は、脳の特定領域のみならず、消化管神経叢、心臓交感神経節、皮膚、副腎などのあらゆる部位に  $\alpha$ -シヌクレインというタンパク質の異常な凝集体が蓄積し、ドーパミンを産生する神経の変性とそれに伴う運動症状や非運動症状を特徴とする神経変性疾患です。近年は、 $\alpha$ -シヌクレインの凝集体が嗅球・扁桃核から伝播するタイプ(Brain-first)と腸管神経叢から伝播するタイプ

(Body-first)の 2 タイプが存在するという概念が提唱され、臨床現場においても、パーキンソン病の運動症状・非運動症状の発症様式は多岐に渡ります。しかし、パーキンソン病の症状を包括的に把握し、適切に治療を行うためには、一人ひとりの患者において幅広い情報収集が必要となっています。本研究は、当院におけるパーキンソン病の患者に関する臨床情報を収集・登録し、臨床経過、治療内容および予後などを解析し、パーキンソン病の予後予測因子を抽出する目的で実施しております。

## 5 協力をお願いする内容

診療記録より、臨床経過（初発症状、振戦の有無、Hoehn Yahr ステージ、MDS-UPDRS スコアなどの運動症状・非運動症状などの各種評価スコア(自己記入式質問票を含む)合併症の有無など)、治療内容(抗パーキンソン病薬の種類と量、導入時期、抗精神病薬の使用の有無など)、検査データ(血液検査、画像情報など)などの情報を収集し、解析させていただきます。既存の診療情報(カルテ情報、各種質問票、検査結果、画像情報など)を用いるため、新たな身体的負担はございません。

## 6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2026年3月31日

## 7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

## 8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人(ご本人より本研究に関する委任を受けた方など)より、情報利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

## 研究機関

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35

慶應義塾大学医学部 神経内科 03-5363-3788

研究責任者 手塚 俊樹 慶應義塾大学医学部神経内科専任講師

メール ttducksll@keio.jp

以上